

18 難治性胸水に対する Denver[®] 胸腔—腹腔シャントによる治療経験の1例

葛 仁猛・山本 和男・杉本 努
青木 賢治・桑原 淳・井上 奈穂
八木原伸江・吉井 新平・春谷 重孝
小山 祐子*・青柳 竜治*

立川総合病院心臓血管外科
同 腎臓内科*

症例は79才男性、76才時に肝不全、ネフローゼを発症し、78才時より腹水著明となり入退院を繰り返していた。平成16年4月より腹水コントロールの為、当院腎臓内科にて腹水透析を導入し、病状は一時改善していた。しかし6月16日より呼吸困難を認め、胸部X-p上大量の右胸水を認めた。4ヶ月にわたり胸腔穿刺排液を頻回に施行、胸膜癒着療法も4度試みたが、いずれも胸水コントロールが出来ない為、Denver[®]胸腔-腹腔シャントチューブを挿入した。

術後、シャントは有効に働き、胸水はコントロールされたので報告する。

19 上肢動脈閉塞症に対する血行再建の経験

島田 晃治・浅見 冬樹・中山 健司
大関 一

県立新発田病院心臓血管・呼吸器外科

上肢の動脈閉塞症は比較的稀な疾患であり、その原因は様々である。2001年10月から2004年9月までに当科で3例の上肢動脈閉塞症に対して血行再建術を施行したので報告する。

〔症例1〕胸郭出口症候群による左鎖骨下動脈狭窄・上腕動脈血栓塞栓症。

〔症例2〕閉塞性動脈硬化症による左鎖骨下動脈閉塞症。

〔症例3〕乳癌術後の放射線照射に起因する左鎖骨下動脈の閉塞症であった。

それぞれの症例に適した血行再建術を施行し良好な結果を得た。

20 高齢者の腹部大動脈瘤（AAA）手術症例の検討

天野 宏・竹久保 賢・氏家 敏巳
高橋 善樹・中澤 聡・金沢 宏

新潟市民病院心臓血管外科

1996年1月～2004年10月に当科で施行したAAA: 251例中、80歳以上の45例であった。年齢は80歳～97歳（平均83.0歳）、待機手術例37例、破裂8例であった。在院死亡は破裂例の2例のみであった。待機手術症例の在院日数は17～61日（平均29.7日）であり、80歳未満症例（平均30.7日）と差を認めなかった。高齢者の手術成績は良好であり、積極的な待機手術施行が妥当と考えられた。

21 当科での90歳代手術症例55例の検討

篠川 主・佐藤 洋樹・大日方一夫
吉田 奎介・鱈淵 勉*・佐藤 巖*

南部郷総合病院外科
南部郷厚生病院*

【目的】高齢者の手術内容の変化を分析することを目的とした。

【対象・方法】1981年1月から2004年10月まで当科で行った90歳代の入院手術症例を8年毎に前、中、後期に分け比較検討した。

【結果】手術例は前期：2例、中期：16例、後期：37例だった。悪性疾患症例と緊急手術症例は各々前期：1例（50%）、0例、中期：9例（56%）、8例（50%）、後期：11例（30%）、14例（38%）で、緊急手術例における良性疾患症例は前期：0例、中期：5例（63%）、後期：14例（100%）だった。良性疾患での待機手術例は前期：1例（50%）、中期：2例（13%）、後期：12例（32%）だった。

【結語】当科での90歳代の手術症例は著明な増加傾向があり、特に良性疾患症例の緊急および待機手術例が多くなり、手術適応となる疾患の変化が認められた。